家庭生活に生きて役立つ力を付ける授業づくり

―第５学年「かたづけよう　身の回りの物」の実践を通して―

宇和島支部

１　研究の視点

(1)　児童の主体的な活動を促す学習展開の工夫

(2)　家庭生活に役立つ実践的・体験的な活動の充実

２　実践事例

(1)　題材名「かたづけよう　身の回りの物　～スッキリ大作戦！～」

(2)　目　標

○　身の回りの整理・整頓に関心を持ち、気持ちよく過ごそうとする。

○　整理・整頓の仕方が分かり、工夫できる。

○　ごみの始末や不用品の活用の仕方を工夫し、環境を考えた生活の仕方が分かる。

(3)　題材設定の理由

○　本学級の児童（男子 18 名、女子 18 名、計 36 名）は、４月から始まった家庭科の学習にとても意欲的に取り組んでいる。調理や裁縫の学習では、生活経験の差から、順序よく作業を進められる児童と、知識はあってもうまく進められない児童とに分かれたが、全員が家庭科の時間を楽しみにし、互いに教え合いながら活動を進める姿が見られた。

しかし、実習には意欲を見せる反面、家庭科の学習で大切な「自分たちの生活を見つめ、よりよく改善しよう」とする姿はあまり見られない。最初の単元である「わたしの生活時間」の学習では、自分や家族の生活時間について振り返り、家族と共に過ごす「団らん」の大切さや家族の一員としてできる役割を果たすことの必要性について考えたが、その後の家庭での実践には個人差が見られた。

身の回りの整理・整頓については、家庭科として初めて学習を行う。物があふれている現代において、児童の物に対する執着は薄い。本学級においても、落とし主が見つからない落とし物があったり、流行を追いかけ、デザイン重視ですぐに新しい物を購入したりする傾向がみられる。「物を大切にすることの必要性」は、知識としては理解できているが、主体的な実践までは至っていない。

○　本題材は、学習指導要領の以下の内容を受けて設定されたものである。

> B　衣食住の生活
> (6)　快適な住まい方
> 　ア（ｲ）　住まいの整理・整頓や清掃の仕方
> C　消費生活・環境
> (2)　環境に配慮した生活
> 　ア　身近な環境との関わり、物の使い方
> 　イ　環境に配慮した物の使い方の工夫

本題材では、身の回りにある物に目を向け、散らかっていると困ることや散らかってしまう原因について考えさせ、そこから整理・整頓の仕方を考えたり、調べたり、実際に工夫したりする活動を通して、住まい方に関心を持たせ、身の回りを快適に整えようとする態度を育てることをねらいとしている。

整理・整頓や清掃に実際に取り組むことで、自分の身の回りにある物に関心を持ち、不用になった物を簡単に捨てるのではなく、環境に配慮しながら、活用する方法も考えることができる。

日常生活における整理・整頓の大切さや、環境保全の立場からの不用品活用等、「生活の営みにおける見方・考え方」を働かせながら、児童自身が主体的な学びを広げ、家庭における実践力につなげていくために適した題材であると考える。

○　指導に当たっては、整理・整頓や身の回りの物の使い方などの実践的・体験的な活動を多く取り入れ、その中で、課題に気付き、解決方法を考えていけるような学習展開を工夫することで、

実感を伴った理解が深まるようにする。また、保護者に児童の取組を知らせることで、家庭での具体的実践につなげ、生活の中で学びを生かす力を付けていきたいと考える。

本時では、まず前時までの整理・整頓を振り返り、気が付いたことや工夫したことなどの感想を交流させる。各家庭で様々な工夫があることに気付かせ、互いの工夫の良いところを生かした実践へとつなげたい。次に、整理・整頓をして出た不用品にはどのような物があったかを想起させる。そして、出てきた不用品を簡単に捨てるのではなく、「どう役立つものに変身させるのか」を考えさせる。

個人で考えた後、それぞれの考えを基にグループで意見交換をさせる。実現不可能なアイデアも出てくるかもしれないが、「不用品を活用して新たな物を生み出す」ことを楽しんで考えさせることで、主体的な学びとなるようにしたい。その際、「環境」にも目を向けさせ、身の回りの物を大切にすることは環境を守ることにもつながることに気付かせたい。

(4)　指導と評価の計画（全４時間）

時間	学習活動	評価規準・評価方法			
		家庭生活への関心・意欲・態度	生活を工夫し創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
1	身の回りに目を向けよう	身の回りの整理･整頓に関心を持ち、整理・整頓をしようとする。（観察･ワークシート）			
2	整理・整頓をしよう「スッキリ大作戦！」		整理･整頓の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。（ワークシート）	身の回りの物の整理･整頓ができる。（観察･ワークシート）	整理･整頓の仕方について理解している。（ワークシート）
1（本時）	物を生かす工夫をしよう「スッキリ大作戦！２　変身術！」		ごみの始末や不用品の活用の仕方を工夫し、環境を考えた生活の仕方を工夫している。（ワークシート）	ごみを始末したり不用品を活用したりすることができる。（ワークシート）	ごみの始末や不用品の活用の仕方を理解している。（ワークシート）

(5)　本時の指導（４/４）

ア　ねらい

○　不用品の活用の仕方を考え、環境を考えた生活の仕方を工夫する。

イ　準備物

○　ワークシート

ウ　展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の工夫（○）評価（◆）
1　前時までの活動を振り返る。	○　整理･整頓をして、気が付いたことや工夫したことを発表しましょう。 ・　よく使う物がすぐ出せるようにしたよ。 ・　空き箱は、捨てずに取っておく。	○　今までの学習を想起させる。

2　家庭から出た不用品を発表する。	○　家庭から出た不用品には、どのような物がありましたか。 ・　消しゴムがたくさん出てきた。 ・　使わないのに、捨てていない物が結構あったな。 ・　もらい物のタオルがいっぱいあったよ。	○　家庭から出た不用品には、どのような物があったかを発表することで、何をどう活用するかを考えやすくする。
スッキリ大作戦！２　変身術！ 不用品を活用して、生活に役立つ物を考え、おすすめしよう。		
3　不用品の活用の仕方を考える。 (1)　個人で考える。	○　不用品を活用してできる物を考えよう。 (1)　個人で考える。 ・　洋服から何か作れないかな。 ・　消しゴムを使って考えよう。 （視点） ①　不用品を使っているか ②　役立つ物になっているか ③　環境のことを考えているか ④　見た目はどうか	○　アイデアが出ない児童には、教科書やノートを参考に考えさせる。 ○　視点を示すことで、どんな工夫をすればよいかを分かりやすくする。 ◆　視点に合わせて工夫して考えているか。　（創意工夫） 【ワークシート】
(2)　グループで、意見交換する。	(2)　グループで交流する。 ・　○○さんの考えた物がおもしろいね。 ・　もっと飾りを付けると、かわいいね。	○　視点を基に、各グループ毎に「おすすめ」を話し合わせる。
(3)　グループで出た意見を発表する。	(3)　各グループの「おすすめ」を発表する。 ・　私たちの班は、簡単にできる○○を考えました。	○　「おすすめ」する理由を明確に発表させる。
4　感想を交流する。	○　今日の授業の感想を発表しましょう。 ・　○班の物は、簡単に作れそうでいいと思いました。 ・　○班の物は、環境のことも考えていて、良いアイデアだと思いました。 ・　これからはすぐに捨てずに、活用の仕方を考えたいです。	○　本時の感想を書かせ、その後発表させることで、今後の生活での実践意欲につなげる。

(6)　活動の実際

ア　児童の主体的な活動を促す学習展開の工夫

(ｱ)　主体的な活動を促す工夫

児童が主体的に活動するためには、疑問を持たせること、楽しそう、やってみようと思わせることが不可欠であると考える。また、何をすればよいかを明確に理解させることが大切である。

〈写真１　整理・整頓の様子〉

本単元の始めには、教室環境や自分の机やロッカーの中に目を向けさせるため、事前に撮影しておいた本棚や机の中の写真を提示した。「乱れている」状況を目にすることで、子どもたちに、「これでは、必要な物が分からない」「見た目がよくない」という印象を持たせることができ、「整理・整頓の必要性」を感じ取らせることができた。「きれいに整える必要がある」ことに気付かせることで、整理・整頓に意欲的に取り組むことができた（写真１）。

(ｲ)　児童相互の交流の場の設定

本単元では、継続してペアやグループで活動する場を設定した（写真２・３）。互いの机やロッカーの中を見合ったり、グループで協力して共有の場の整理・整頓をしたりすることで、自分では気付かなかった整理・整頓の工夫に触れることができた。「それは、手前に置いた方が取りやすいよ。」「大きさを揃えた方が、きれいに見えるんやない？」など、互いに相談しながら活動する姿が見られた。

〈写真２　ペアでの整理整頓の様子〉

〈写真３　グループでの整理・整頓活動前と後の比較〉

〈実践後の児童の感想〉

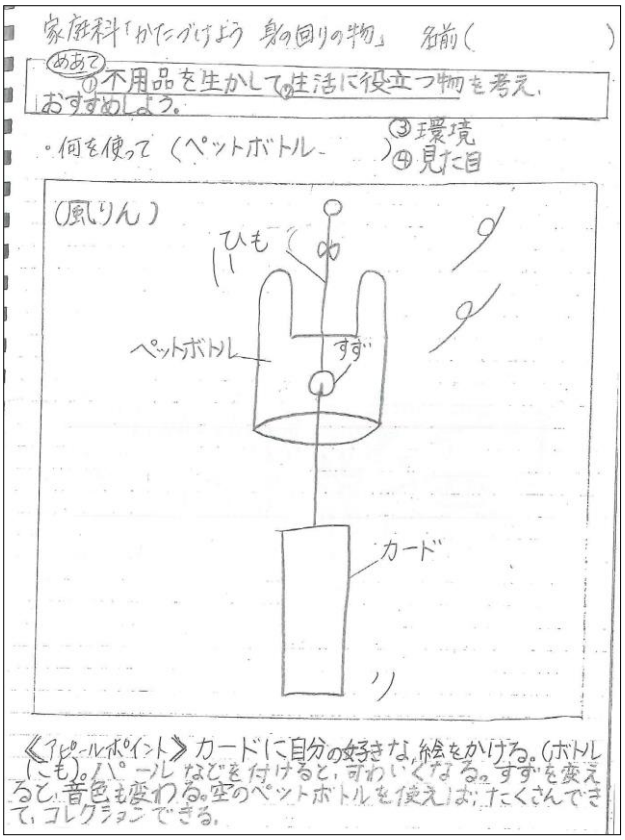
○　絵の具や鍵盤ハーモニカは、名前が見えるように向きをそろえました。そろえているとすっきりしたし、ぴったり入った時は嬉しかったです。

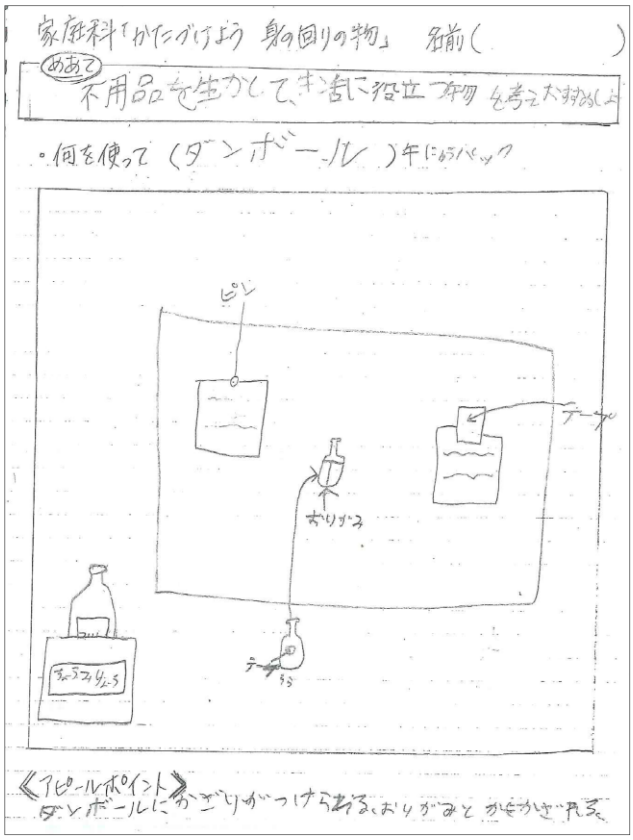
○　初めは横になっていたり、縦になっていたりして、ぐちゃぐちゃだったけど、整理・整頓したら、見た目がきれいになってすっきりしました。

○　次に使うときに使いやすいように、考えて整頓しました。前よりすっきりしたので、きれいなまま続けたいです。

また本時では、「不用品を生かした生活に役立つ物」を一人一人が考え（資料１）、グループで紹介し合っておすすめの品を選ぶ活動を取り入れた（写真４）。グループでの意見交流の中で、アピールポイントをきちんと説明することで、「簡単にできそうでいいね。」「かわいい。」など、互いの考えた物を認め合う発言が見られ、みんなうれしそうな表情であった。また、自分とは違うアイデアの良さに気付き、班でおすすめの物を決めることができた。そこからさらに、他の班によりアピールするためには、どのポイントを強く薦めたらよいのかを話し合うことで、提示した視点を意識して、グループの中の意見をまとめることができていた。

〈写真４　グループで話し合う様子〉





〈資料１　個人のワークシート〉

グループでしっかりと話し合うことができたことで、各班の「おすすめ」の発表の場では、自信をもって自分の考えた物を発表する姿が見られた（写真５）。

最後に全員で投票を行い、クラスで一押しの物を決めた。自分たちがおすすめした物が選ばれた児童は、とても嬉しそうであった。

〈写真５　班ごとに発表する様子〉

〈授業後の児童の感想〉

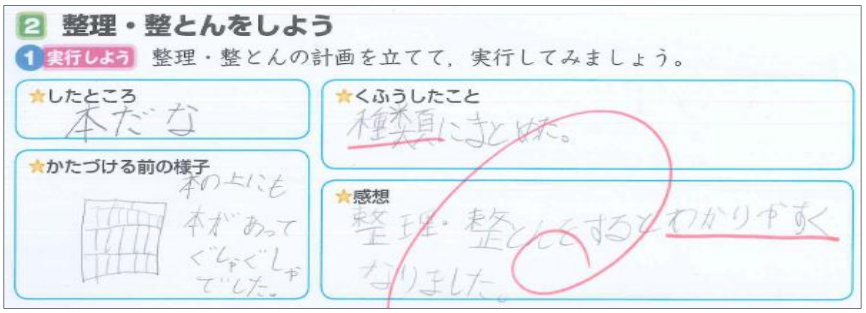
○　自分が考えた物は選ばれなかったけれど、班でおすすめした物が１番になり、うれしかった。

○　みんな、家からたくさん出る不用品を使って、いろいろな物を考えていた。作ってみたいと思った。

イ　家庭生活に役立つ実践的・体験的な活動の充実

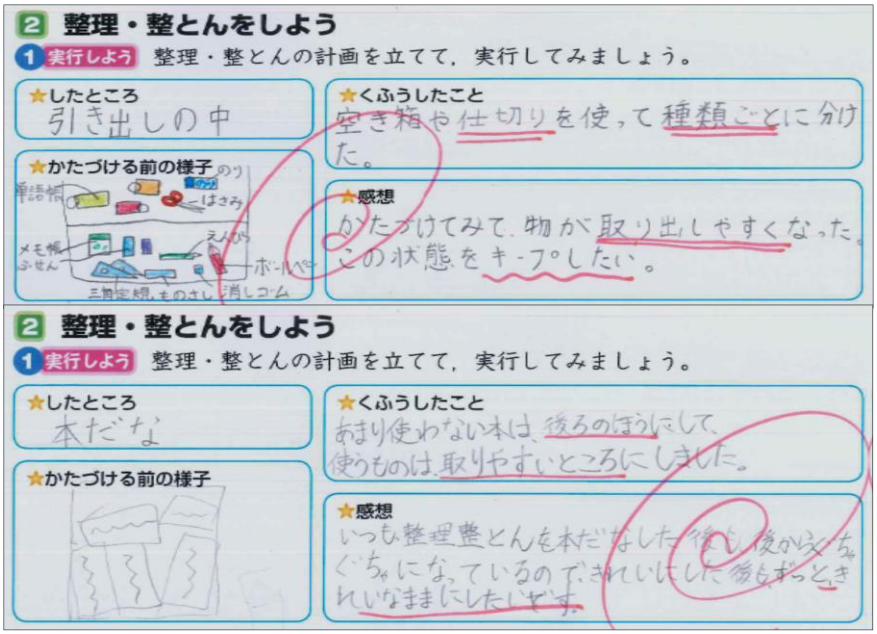
(ｱ)　実践的・体験的な活動の充実

本単元の中で、①　自分の机の中やロッカーを整理・整頓する活動　②　グループ毎に学校内の指定した場所を整理・整頓する活動　③　家庭で自分で決めた場所を整理・整頓する活動の３つを取り入れた。中でも、③の活動は、学校で学んだことを家庭で生かすという、本学習の



中でもねらいとする大切な内容である。整理・整頓のポイントを押さえ、実践するようにした。

実践後、実践報告ノートに内容をまとめ、互いに報告し合う場を設けた（資料２）。友達の整理・整頓の工夫点を知り、自分の実践に生かそうと考える児童も出てきた。また、整理・整頓することの良さを再確認し、これからも続けていきたいという気持ちを高めることができた。



〈資料２　実践報告ノート〉

(ｲ)　家庭との連携

授業の中で学んだことを生かし、家庭でも「よく使う物を取りやすいところに変えた」「大きさや順番を考えて本を整理した」など工夫をしながら整理・整頓をすることができた。

また、事前に家庭科での学習を学級通信で紹介しておくことで、家族から感謝や称賛の声を掛けてもらえることができ、継続して取り組もうとしたりする姿が見られるようになり、意欲付けに効果的であったと感じている。

３　成果と課題

「スッキリ大作戦！」のサブテーマを掲げ、実践を中心に据えて授業展開を工夫することで、児童は意欲的・主体的に楽しみながら学習に取り組むことができた。実践後には、それぞれの取組を発表したり、感想交流をしたりする場を設定した。友達の工夫に触れることで、整理・整頓のポイントに気付き、今後の実践に生かそうと考える児童も増えた。交流することで、互いの良さを認め合い、受け止めようとする姿が見られた。

また、児童の取組の様子を学級通信で報告したり、家庭での実践にコメントをお願いしたりすることで、子どもたちの取組について家族が関心を持ち、温かいコメントをいただくことができた。家族の称賛によって、更なる意欲を持つことができた児童もいた。

しかし、授業での取組は意欲的でも、生活の中で継続して整理・整頓を心掛ける姿が見られているとは言えない。慌ただしい生活の中で、周りの環境にまで目を向けて、常に意識して生活することはできていない。また、物の価値に対する関心も高まったとは言えず、落とし物が減らず、物を大切にしようとする意識の高揚までには至らなかった。今後、毎日の落とし物についての啓発を促しながら、より「物を大切にする」ということを意識した生活が送れるようにしたい。

家庭の意識には温度差があり、配慮しながら指導をしても、家庭での協力が得られない児童もおり、そのことによる個人差が生じる結果となった。家庭科は、将来の生活と強いつながりのある教科である。児童が意欲的に活動できるために、保護者への啓発活動をより充実させることで、家庭での実践に対する保護者の興味・関心を高め、保護者の思いが児童に伝わるよう、一層連携体制を整えていく必要がある。

将来に生きて働く確実な力を児童が身に付けるためにも、児童自身が主体的に取り組む学習展開や、家庭との連携による実践力の強化に力を注ぎ、工夫・改善を繰り返しながら、今後も指導に当たりたい。